



わたしたちは、持続可能な社会を目指す「SDGs」に賛同し、子どもたちのより良い環境づくりと子育てのための取り組みを推進します。



未来を4つ生かす 子どもたちのために。

家庭と施設が心をひとつに

子どもたちの健やかな育ちには、家庭と保育園(所)・認定こども園などの施設がそれぞれの役割を担い、協力しあう「共育(きょういく)」が大切です。家族とふれあう時間、施設で多くの人と過ごす時間、そのバランスの取れた共育が子どもたちのより良い発育・発達への第一歩となります。そのためにも、バランス良く(土曜日も含め就労等に見合った)施設を使用していただくことを望んでいます。

0歳から自己肯定感を育む

0歳からの乳幼児期は、人が生きる力の基礎を育むための重要な時期です。この間に他者との交流を通して社会性を身につけ、さまざまな体験の中でやり遂げる力を養うことが、思いやりの心や自己肯定感を高めることにつながります。

乳幼児保育のプロとして

保育園(所)・認定こども園は、0才からの保育・教育を行っています。保育者一人ひとりがプロとして、より質の高い保育・教育ができるよう日々研鑽を重ね、子どもたち一人ひとりの心やからだの育ちに寄り添い、丁寧な援助や言葉がけを実践しています。子どもの心の声やつぶやき、成長の喜びをご家庭と共有し、密な連携を心がけることで、ご家庭と共に子どもたちの明るい未来づくりを目指しています。

京都市内 **保育園(所)・認定こども園**

10月4日 受付スタート!

ご案内

令和5年度の保育利用申込の案内冊子の配布及び保育利用の申込については令和4年10月4日より開始されます。詳しくは京都市ホームページをご確認ください。(一次調整の申込期限は11月18日(金))

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hagukumi/page/0000274712.html>



駒村 康平 慶應義塾大学経済学部教授

日本の女性の就業率は先進国最高水準に近づいています。働く女性の増加により、保育園・認定こども園の利用も増えています。他方で、職場では親も様々なストレスに直面します。それは子育てにも影響を与えます。職場でストレスを感じた親は、家庭に帰ったあと自分の子どもにきつく当たることが確認されています。こうした家庭環境は子どもの成長に大きな影響を与えます。特に格差が拡大するなかで、経済的に困窮な状況にある親は、生活のストレスから子どもとの会話が少なくなったり、きつく接することが多く、子どもの言語発達に悪影響を与えることが確認されます。保育園・認定こども園における丁寧な保育は、家庭内環境における子どもの不利な状況を解消し、子どもの自己肯定感を育む役割を果たします。



吉田 正幸 保育システム研究所代表

欧米の調査研究では、親の学歴や収入の違いによって生後36か月時点での子どもの発する語彙に2倍以上の開きがあることが明らかになっています。一方で、どのような家庭であっても、保育を受けていない子どもより保育を受けている子どものほうが発達が良いという調査結果も多く見られます。しかも、より質の高い保育のほうが子どもの発達に良いということも分かっています。乳幼児期から丁寧な保育を受けることで、子ども一人ひとりの健やかな育ちが促され、子ども同士や保育者との関わりによってポジティブな生きる力が育まれていきます。京都の保育園や認定こども園は、様々な保育者研修や保育環境の整備などに努めながら、質の高い保育を目指すとともに、子育て家庭に対する多様な支援に取り組んでいます。

公益社団法人 京都市保育園連盟
075(253)3186



京都市日本保育協会
075(671)3355



全国認定こども園協会 京都市支部
075(491)3300

